

# イネ紋枯病情報第1号

令和元年8月2日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

一部の地域で紋枯病の発生量が多いほ場が見られます。  
高温多湿で発生しやすいため、発生状況に注意しましょう！

## 1 発生状況

県内のイネ 157 ほ場における7月下旬の巡回調査では、紋枯病の発病株率は2.33%（平年1.89%、前年1.07%）とおおむね平年並です。しかし、一部の地域で紋枯病の発生量が多いほ場が見られます。

## 2 イネ紋枯病について

本病原菌の生育と侵入に最も適した温度はそれぞれ28～32℃、30～32℃です。このような発病に好適な条件下では侵入後1～2日で株元に病斑ができます（図）。



図 紋枯病の病徴

## 3 今後の発生予測

名古屋地方气象台8月1日発表の1か月予報によれば向こう1か月の平均気温が高い確率は60%で、降水量はほぼ平年並の見込みです。7月は降雨が多かったため、すでに感染している可能性があり、**今後、高温多湿な条件が続くと上位葉に進展するため、注意が必要です。**

## 4 防除対策

第3葉鞘以上の上位葉が発病すると減収などの被害に結びつきます。上位葉への進展や多発の兆候が見られたら、穂揃期までに表を参考にして、株元に届くように薬剤散布をしてください。

表 紋枯病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	本田での使用回数	FRACコード
バシタック水和剤75	収穫14日前まで	3回以内	7
モンカットフロアブル	収穫14日前まで	3回以内	7
バリダシン液剤5	収穫14日前まで	5回以内	U18

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、[http://www.jcpa.or.jp/lab0/jfrac/pdf/code\\_pdf01.pdf](http://www.jcpa.or.jp/lab0/jfrac/pdf/code_pdf01.pdf) を参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。